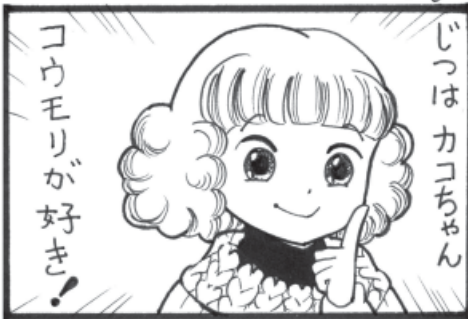


カコちゃん  
ショウくん かほくがたナルドレン



## 第19回 アブラコウモリ

夏の夕暮れ時、どこからともなく河北潟に押し寄せる黒い影。縦横無尽に飛び回り、障害物をうまく交わして目の前をすり抜けていく。その正体はアブラコウモリです。高空を飛ばず、目線がその少し上を飛ぶことが多いので、よく目立ちます。翼を広げると20cm以上になり、普段飛んでいる姿を見ると、けっこう大きな印象がありますが、実際には胴体の長さは5～6cm、体重は5～10gしかありません。まれに動けないでいる個体や死体を見つけると、とても小さな生きものであることがわかります。

どこからやってくるのか、どこに向かうのか分かりませんが、夕方、日が沈んで薄暗くなった頃、干拓地にはたくさんのアブラコウモリがやってきます。おそらく障害物の少ない広い空間があり、さらに餌となる飛翔する昆虫が河北潟にはたくさんいるからだと思います。この昆虫の中には、田畑の害虫も含まれるものと思われ、その点からは益獣といえます。また餌にはユスリカなど水生昆虫も含まれますが、こうした水生昆虫は、幼虫時代に水の中の有機物を食べ、羽化しさらに上位の捕食者に食べられることで、水から陸への物質循環を担っていますが、その仕組みの中にアブラコウモリも重要な役割を担っているかも知れません。

コウモリは洞窟にいるといったイメージがありますが、アブラコウモリは別名をイエコウモリといい、屋根裏などの家屋をすみかとしています。都市部にも多く、人にとってたいへん身近な存在です。

またコウモリは吸血するとのイメージもありますが、先に書いたように、このコウモリは昆虫食で、血を吸われることはありません。また、よくコウモリは鳥か獣かとクイズになりますが、アブラコウモリにも体毛が生えていて、間違いなく哺乳類です。翼は羽毛でできているのではなく、指の間の皮膚が伸びた膜からできています。

その他、コウモリ類でよく知られていることとして、超音波を発して周囲の状況を知ることができる(エコーロケーション)ことがあります。その性質を利用して、周波数をキャッチできるバッドディテクターという装置を使って、コウモリの種類を推測することができます。2～3万円で市販されているものもありますが、簡単な超音波の可聴音への変換と増幅装置ですので、昔のトランジスタラジオの製作などを手掛けた方であれば、自作することも可能です。自作の方法を紹介したインターネットのサイトもあります。(文：高橋 久)